卒業論文

現代におけるラジオの「緩やか」な存在意義

2012 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2017 年 1 月　提出

要約

本論文では、ラジオの受け手を対象にしたインタビュー調査から、リスナーとラジオの見えづらい関係性に着目し、インターネットのますますの普及により多くの新しいメディアが登場した現代においてもなお示すことのできる、ラジオの存在意義を探ることを目的とする。

第 1 章では本論にいたった筆者の意識を述べ、問題設定を行う。また、本論文でラジオと呼ぶメディアについて非常に大まかであるが定義を行っている。

第 2 章では、第 1 節で日本におけるラジオのあゆみについて、放送局の資料を利用しながらまとめている。第 2 節では各種の統計データを参照したのち、現在ラジオ業界と呼ばれるところで行われている取り組みについて紹介する。

第 3 章では、第 1 節にてラジオを中間的なものとして捉えた先行研究を挙げ、単なるマスメディアにとどまらないラジオの微妙な位置づけに取り組んだ事例を紹介する。第 2 節では顔を合わせない相手に対して親近感を感じるというコミュニティは存在しうるかという課題に取り組んだ事例を挙げ、つながり感とラジオについて考える手がかりとする。

第 4 章は、ラジオの受け手を対象としたインタビュー調査をまとめた。第 1 節と第 2 節では TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」のリスナーを選定した理由と、番組の内容を一部書き起こしを添えて説明する。第 3 節で調査概要を述べた後、第 4 節からは聞き取り調査の内容を細かく述べ、最後に分析を行っている。

第 5 節では、全体をふまえた結論を述べている。

目次

1　問題設定
1.1　はじめに……1
1.2　問題設定……2
2　ラジオの放送の歴史的展開と現状……3
2.1　日本のラジオ放送の歴史……3
2.2　日本のラジオ放送の現状……6
3　ラジオはどのような媒体であったのか？……10
3.1　中間領域のメディア論……10
3.1.1　藤原健固の“中間的”コミュニケーション論から……10
3.1.2　ラザースフェルドの二段階の流れ理論……10
3.1.3　北郷裕美の「コミュニティ・メディア」論から……11
3.2　地域性のないコミュニティ論……11
3.2.1　坂田健司の「地域性」のないコミュニティ論から……11
3.2.2　ガンパートの「地図にないコミュニティ」論から……11
4　聞き取り調査――TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」の事例から……13
4.1　TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」を選定した理由……13
4.2　TOKYO FM「SCHOOL OF LOCK!」の放送内容……14
4.3　調査の方法……16
4.4　事例調査の概要……16
4.4.1　A の事例……16
4.4.2　A におけるラジオの存在意義……17
4.4.3　B の事例……18
4.4.4　B におけるラジオの存在意義……19
4.4.5　C の事例……20
4.4.6　C におけるラジオの存在意義……20
4.4.7　D の事例……21
4.4.8　D におけるラジオの存在意義……21
4.4.9　考察……22
5　結論……25

6　おわりに……26

参考文献……27

付録　聞き取り調査の内容書き起こし……29